

(環境確保条例第118条の2)

土壌汚染情報公開台帳

整理番号	112-03-02	調製年月日・契機	令和4年4月15日			・ 第116条第1項第1号		
所在地	世田谷区玉川台一丁目764番1 (地番)				世田谷区玉川台一丁目1番5号 (住居)			
訂正年月日・契機								
工場又は指定作業場の名称 (土地の改変に係る事業の名称)		有限会社近藤クリーニング商会			面積	87 m ² (汚染地) 171 m ² (調査)		
汚染状況調査の方法に関する特記事項								
当該土地において講じられた健康被害の防止又は 周辺地下水汚染拡大の防止のための措置がある場合は、その内容								
当該土地に第122条第1項第2号の土壌がある場合は、その旨 (汚染の原因が水面埋立材に由来する場合は、その旨)								
当該土地が第54条第3項第1号に該当する場合は、その旨								
当該土地が第55条第3項に該当する場合は、その旨								
当該土地が土壌汚染対策法の規定に基づき要措置区域又は形質変 更時要届出区域に指定された区域を含む場合は、その旨								
備考								
土壌の汚染状況	報告受理年月日	特定有害物質の種類		適合しない基準項目		汚染状況調査の受託者		
	令和4年2月25日	テトラクロロエチレン		含有量基準・溶出量基準・第二溶出量基準		エコサイクル株式会社		
				含有量基準・溶出量基準・第二溶出量基準				
				含有量基準・溶出量基準・第二溶出量基準				
				含有量基準・溶出量基準・第二溶出量基準				
				含有量基準・溶出量基準・第二溶出量基準				

[illegible]

別紙

特定有害物質の使用、排出等の状況

業種及び主要製品	クリーニング業
特定有害物質の種類、使用目的、使用形態等	テトラクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン 洗たく業の用に供する洗浄施設
特定有害物質の使用状況	特定有害物質（テトラクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン）含むドライクリーニングの溶剤を使用していた。使用量は不明である。漏洩事故等はない。 使用期間 詳細不明 ～ 2016年 3月
特定有害物質の排出状況	作業工程において発生するガスについては、溶剤回収装置により回収し処理を実施していた。排水工程は無く、残渣物等の廃棄物については、ドライ機周辺に一時保管した後、処分業者により産廃処分を行っていた。
特定有害物質の使用場所等	△別紙（添付資料 5b）のとおり
地下施設の有無及び概要	特になし
地表の高さの変更及び地質に係る情報	特になし
土壌汚染対策法又は条例に基づく調査及び措置の履歴	特になし
既往調査及び措置に関する情報	特になし
その他特記事項	特になし

- 備考 1 別紙が2枚以上となる場合は、それぞれに番号を付けること。
 2 △印の欄には、報告書に添付する各別紙に一連番号をつけた上、該当する別紙の番号を記入すること。
 3 この様式各欄に記入しきれないときは、図面、表等を利用すること。

(日本産業規格A列4番)

(法、条例共通)

技術管理者確認欄

土壤汚染状況調査結果報告シート

1. 調査概要		
調査対象地	(住居表示)世田谷区玉川台1丁目1番5号 (地 番)世田谷区玉川台一丁目764番1	添付書類3
用途地域	近隣商業地域	添付書類3
調査対象地面積	171.16㎡	添付書類3
深度限定の有無	無	
指定調査機関名	エコサイクル株式会社	
指定調査機関の 指定番号	2019-8-0001	
技術管理者名		
技術管理者証の交 付番号		
準拠法令等	・土壤汚染対策法(平成14年法律第53号) ・同法施行令(平成14年政令第336号)、同法施行規則(平成14年環境省令第26号) ・土壤汚染対策法に基づく調査及び措置に関するガイドライン(最新版 環境省水・大気 環境局土壤環境課) ・都民の健康と安全を確保する環境に関する条例(平成12年東京都条例第215号) ・東京都土壤汚染対策指針(平成31年4月1日施行)	

2. 地歴調査結果概要(調査対象地の土壤汚染のおそれの把握)		
有害物質取扱事業 場の設置履歴	・昭和38年～平成28年まで、(株)近藤クリーニング商会在立地していた。	
特定有害物質の使 用状況とその形態	調査対象地では、昭和38年からクリーニング業として事業を行っていた。平成28年3月に特定施設の届出、及び東京都環境確保条例に基づく工場の届出を廃止し、同年6月に土壤汚染対策法第3条の調査猶予を受けている。特定有害物質(テトラクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン)を含むドライクリーニングの溶剤を使用していた。漏洩事故等はない。	
地表の高さの変更 (盛土、埋土等)の経 緯	特になし	
既往調査・対策の経 緯	特になし	
その他の経緯	特になし	
汚染のおそれとその 由来	☒ 人為由来による汚染のおそれがある(おそれを否定できない) ☐ 自然由来による汚染のおそれがある ☐ 水面埋立て用材料による汚染のおそれがある	

試料採取等対象物質の種類	(物質の種類とその理由) テトラクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン(ドライクリーニングとして利用) トリクロロエチレン、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、クロロエチレン(分解生成物)	
土壌汚染のおそれの区分の分類(平面)	(土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる土地) ・有害物質を取り扱っていた工場敷地全体が「土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる土地」に分類される。	添付書類5a
	(土壌汚染が存在するおそれが少ないと認められる土地)	
	(土壌汚染が存在するおそれが無いと認められる土地)	
汚染のおそれが生じた場所の位置(断面)	(現地表面の汚染のおそれの有無とその理由) ドライクリーニングとして利用していた、工場全域。特定有害物質を使用していた事業(クリーニング)から現在まで盛土の履歴が無い為、現地盤面を汚染のおそれが生じた場所の位置とした。	添付書類5b
	(現在の地表より深い位置の汚染のおそれの有無とその理由及び深度)	

3. 調査方法		
3-1. 土壌調査方法 ※調査地点位置図を別冊資料-1 図4.1に示す。		
現地試料採取期間	(ガス採取)2021年10月5日	
	(土壌採取)2021年10月15日～2021年10月16日	
室内分析期間	2021年10月5日～2021年10月6日(土壌ガス分析) 2021年10月15日～2021年11月1日(土壌分析)	
試料採取等対象物質と試料採取を行う区画の選定	・工場敷地全域について、テトラクロロエチレン及びその分解生成物(トリクロロエチレン、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、クロロエチレン)、及び1,1,1-トリクロロエタンについて、全部対象区画とした。	添付書類5b
第一種特定有害物質の土壌ガス採取方法	・全部対象区画は、単位区画毎に、土壌汚染のおそれが多いと認められる部分で現地表から0.8～1mの深度の地中において土壌ガスを採取した。土壌ガスは持ち帰り分析を実施し、運搬及び保管による濃度減少の程度に関しては別冊資料2-1土壌ガス調査分析結果報告書:「運搬及び保管による濃度減少の評価」(別冊資料75頁ページ)に記載した。	添付書類5b
第一種特定有害物質のボーリングによる試料採取方法	土壌ガスが検出された2区画において、深度10mまでのボーリング調査を実施した。 深度10mまでに帯水層の底面は確認されなかった。 試料採取は、0～0.05m、0.5m、1m、以下1mごとの10mまでの土壌試料を採取した。	添付書類7c 添付書類7d
第二種、第三種特定有害物質の試料採取方法		

3-2. 地下水調査方法 ※調査地点位置図を_____に示す。		
現地試料採取期間	(代表地点) -	
	(対象地境界) -	
室内分析期間	(代表地点) -	
	(対象地境界) -	
代表地点	地下水採取等対象物質と地下水採取を行う位置の選定(平面)	
	地下水採取等対象物質と地下水採取を行う深さの選定(断面)	
対象地境界	地下水採取等対象物質と地下水採取を行う位置の選定(平面)	
	地下水採取等対象物質と地下水採取を行う深さの選定(断面)	
地下水試料採取方法		

4. 調査結果概要

※1 調査結果一覧表を 添付資料5c 添付資料7d に示す。
 ※2 調査結果格付図を 添付資料7a 添付資料7d に示す。

(試料採取日: 土壌ガス 2021年10月5日、土壌試料 2021年10月15日～16日)

分類	調査対象物質	土壌ガス					土壌ガス(地下水)				
		基準 (ppm) *	調査 区画数	最大 濃度 (ppm)	ガス 検出 地点数	試料 採取等 の省略	基準 (mg/l)	調査 区画数	測定 結果 (mg/l)	基準 超過 地点数	試料 採取等 の省略
(第一種特定有害物質) (揮発性有機化合物)	トリクロロエチレン	0.1	2	ND	0	無	0.01				
	テトラクロロエチレン	0.1	2	0.2	2	無	0.01				
	ジクロロメタン	0.1	0				0.02				
	クロロエチレン	0.1	2	ND	0	無	0.002				
	四塩化炭素	0.1	0				0.002				
	1,2-ジクロロエタン	0.1	0				0.004				
	1,1-ジクロロエチレン	0.1	2	ND	0	無	0.1				
	1,2-ジクロロエチレン	0.1	2	ND	0	無	0.04				
	1,1,1-トリクロロエタン	0.1	2	ND	0	無	1				
	1,1,2-トリクロロエタン	0.1	0				0.006				
	1,3-ジクロロプロペン	0.1	0				0.002				
	ベンゼン	0.05	0				0.01				

分類	調査対象物質	基準 (mg/l) *	清出量調査						代議地点における 地下水調査				対象地境界における 地下水調査			
			調査 区画数	基準 調査 深度 (m)以下	最大 濃度 (mg/l)	最大 汚染 深度 (m)以下	基準 超過 地点数	試料 採取等 の省略	調査 区画数	最大 濃度 (mg/l)	基準 超過 地点数	試料 採取等 の省略	調査 区画数	最大 濃度 (mg/l)	基準 超過 地点数	試料 採取等 の省略
(第一種特定有害物質) (揮発性有機化合物)	トリクロロエチレン	0.01	2	10	0.0008	0	0	無								
	テトラクロロエチレン	0.01	2	10	0.013	0.5	1	無								
	ジクロロメタン	0.02														
	クロロエチレン	0.002	2	10	ND	0	0	無								
	四塩化炭素	0.002														
	1,2-ジクロロエタン	0.004														
	1,1-ジクロロエチレン	0.1	2	10	ND	0	0	無								
	1,2-ジクロロエチレン	0.04	2	10	0.0083	0	0	無								
	1,1,1-トリクロロエタン	1														
	1,1,2-トリクロロエタン	0.006														
	1,3-ジクロロプロペン	0.002														
ベンゼン	0.01															
(特定有害物質) (重金属等)	カドミウム及びその化合物	0.003														
	シアン化合物	0.1														
	鉛及びその化合物	0.01														
	六価クロム化合物	0.05														
	砒素及びその化合物	0.01														
	水銀及びその化合物	0.0005														
	セレン及びその化合物	0.01														
	ほう素及びその化合物	1														
	ふっ素及びその化合物	0.0														
	有機燐化合物	0.1														
(農薬等)	ポリ塩化ビフェニル	0.0005														
	チウラム	0.006														
	シマジン	0.003														
	チオベンカルブ	0.02														

*基準値の斜字:の基準は、「不検出」を示す。

分類	調査対象物質	含有量調査						採取等の 省略
		基準 (mg/kg)	調査 区画数	最深 調査 深度(m)	最大 濃度 (mg/kg)	最大 汚染 深度 (m)	基準 超過 地点数	
(特定有害物質等) 第二種	カドミウム及びその化合物	45						
	シアン化合物	50						
	鉛及びその化合物	150						
	六価クロム化合物	250						
	砒素及びその化合物	150						
	水銀及びその化合物	15						
	セレン及びその化合物	150						
	ほう素及びその化合物	4000						
	ふっ素及びその化合物	4000						
	基準不適合範囲の面積 ^{※2} (m ²)		87					
汚染原因		ドライクリーニングに用いる溶剤によるものと推定される						
備考		・土壌汚染の存在するおそれが多いと認められる範囲：2区画 ・網掛け□は、基準超過を示す。 ・基準不適合区画が存在する地番：世田谷区玉川台一丁目764番1						

- 区画数は、調査対象地内の単位区画(10mメッシュ)の合計数を記載ください。
- ①30mメッシュの調査(一部調査対象区画の調査)を行った範囲については9区画、自然由来特別調査を行った範囲についてはその間の対象区画数として計算してください。
 - ②第一種特定有害物質の溶出量調査で代表地点でボーリングを行った場合は、ガス検出範囲を含めた区画数で計算してください。
 - ③統合された区画は1区画と数えてください。
 - ④土壌汚染の存在するおそれがないと認められる範囲の区画数は含めないでください。
 - ⑤全体の調査範囲に対し、分割して報告書を作成している場合、原則、当報告書で報告する範囲の区画数でまとめてください。

注)1 第二種特定有害物質及び第三種特定有害物質の詳細調査の結果を報告する場合は、Ⅲ-11を参考にして作成してください。なお、詳細調査結果は、法に基づく調査の場合は第7条第1項又は第12条第1項、条例に基づく調査の場合は第117条第3項の届出で報告してもかまいません。(第一種特定有害物質の深度調査については、Ⅲ-9に記入してください。)

注)2 土壌ガス等を検出しボーリング調査を実施した場合には、ボーリング調査結果も踏まえて基準不適合範囲の面積を記入してください。

(法、条例共通)

技術管理者確認欄

詳細調査(深度方向調査)結果報告シート

1. 調査概要		
調査対象地	(住居表示)世田谷区玉川台1丁目1番5号 (地 番)世田谷区玉川台一丁目764番1	添付書類3
現地試料採取期間	2021年10月15日～2021年10月16日	
室内分析期間	2021年10月16日～2021年11月1日	
指定調査機関名	エコサイクル株式会社	
指定調査機関の指定番号	2019-8-0001	
技術管理者名		
技術管理者証の交付番号		
準拠法令等	・土壌汚染対策法(平成14年法律第53号) ・同法施行令(平成14年政令第336号)、同法施行規則(平成14年環境省令第28号) ・土壌汚染対策法に基づく調査及び措置に関するガイドライン(最新版 環境省水・大気環境局土壌環境課) ・都民の健康と安全を確保する環境に関する条例(平成12年東京都条例第215号) ・東京都土壌汚染対策指針(平成31年4月1日施行)	

2. 調査方法		
※ボーリング調査地点位置図を 添付資料3 添付資料1 に示す。 ※ボーリング調査地点の断面図を 別冊資料3 添付資料2 に示す。		
ボーリング調査方法 ※1と試料採取等対象物質		
第一種有害物質の 土壌試料採取深度※2		
第二種有害物質、 第三種有害物質の 土壌試料採取深度※2		
地下水試料等対象物質、採取位置、採取深度、採取方法 ※3	土壌ガス調査でテトラクロロエチレンが検出された2区画において、ボーリング調査をによるケーシング内の地下水を採取した。試料採取等対象物質は、テトラクロロエチレン及びその分解生成物(トリクロロエチレン、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、クロロエチレン)とした。	添付書類7c 添付書類7d

※1 ボーリング孔の設置状況についても記載してください。

※2 帯水層底面の試料採取がある場合は記載してください。

※3 詳細調査で追加で地下水調査を実施した場合には、採取方法等を記入してください。

3. 調査結果概要

※1 調査結果一覧表を 別冊資料3 添付資料3.4 に示す。

※2 調査結果総括図を 別冊資料3 添付資料5 に示す。

試料採取等対象物質名		調査区画数	基準不適合 の区画数	最深調査 深度(m)	最深汚染 深度(m)	最大濃度
土壌溶出量 (mg/L)						
土壌含有量 (mg/kg)						
地下水 (mg/L) ※	トリクロロエチレン	2	0			ND
	テトラクロロエチレン	2	0			ND
	1,1-ジクロロエチレン	2	0			ND
	1,2-ジクロロエチレン	2	0			ND
	クロロエチレン	2	0			ND
<備考> ・濃度範囲の数値の着色は基準不適合又は第二溶出量基準不適合であることを示す						

●最深汚染深度は、基準超過が確認された最深深度を記載ください。(対策深度ではありません。)

●最大濃度は、詳細調査における最大濃度を記載ください。ただし、詳細調査で汚染が見つからなかった場合には、概況調査の最大濃度を記入してください。

※詳細調査時に追加で地下水調査を実施した場合には、汚染状態を記入してください。

(法、条例共通)

土壤汚染状況調査結果報告シート

技術管理者確認欄



1. 調査概要

調査対象地	(住居表示)世田谷区玉川台1丁目1番5号	添付書類3
	(地番)世田谷区玉川台一丁目784番1	
用途地域	近隣商業地域	添付書類3
調査対象地面積	171.16㎡	添付書類3
深度限定の有無	無	
指定調査機関名	エコサイクル株式会社	
指定調査機関の 指定番号	2019-8-0001	
技術管理者名		
技術管理者証の交 付番号		
準拠法令等	・土壌汚染対策法(平成14年法律第53号) ・同法施行令(平成14年政令第336号)、同法施行規則(平成14年環境省令第29号) ・土壌汚染対策法に基づく調査及び措置に関するガイドライン(最新版 環境省水・大気 環境局土壌環境課) ・都民の健康と安全を確保する環境に関する条例(平成12年東京都条例第215号) ・東京都土壌汚染対策指針(平成31年4月1日施行)	

2. 地歴調査結果概要(調査対象地の土壌汚染のおそれの把握)

有害物質取扱事業 場の設置履歴	・昭和38年～平成28年まで、尚近藤クリーニング商会在立地していた。	
特定有害物質の使 用状況とその形態	調査対象地では、昭和38年からクリーニング業として事業を行っていた。平 成28年3月に特定施設の届出、及び東京都環境確保条例に基づく工場の 届出を廃止し、同年6月に土壌汚染対策法第3条の調査猶予を受けている。 特定有害物質(テトラクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン)を含むドライク リーニングの溶剤を使用していた。漏洩事故等はない。	
地表の高さの変更 (盛土、埋土等)の経 緯	特になし	
既往調査・対策の経 緯	特になし	
その他の経緯	特になし	
汚染のおそれとその 由来	☒ 人為由来による汚染のおそれがある(おそれを否定できない) ☐ 自然由来による汚染のおそれがある ☐ 水面埋立て用材料による汚染のおそれがある	

試料採取等対象物質の種類	(物質の種類とその理由) テトラクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン(ドライクリーニングとして利用) トリクロロエチレン、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、 クロロエチレン(分解生成物)	
土壌汚染のおそれの区分の分類(平面)	(土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる土地) ・有害物質を取り扱っていた工場敷地全体が「土壌汚染が存在するおそれが比較的多いと認められる土地」に分類される。	添付書類5a
	(土壌汚染が存在するおそれが少ないと認められる土地)	
	(土壌汚染が存在するおそれがないと認められる土地)	
汚染のおそれが生じた場所の位置(断面)	(現地表面の汚染のおそれの有無とその理由) ドライクリーニングとして利用していた、工場全域。特定有害物質を使用していた事業(クリーニング)から現在まで盛土の履歴が無い為、現地盤面を汚染のおそれが生じた場所の位置とした。	添付書類5b
	(現在の地表より深い位置の汚染のおそれの有無とその理由及び深度)	

3. 調査方法		
3-1. 土壌調査方法 ※調査地点位置図を別冊資料-1 図4.1に示す。		
現地試料採取期間	(ガス採取)2021年10月5日	
	(土壌採取)2021年10月15日～2021年10月16日	
室内分析期間	2021年10月5日～2021年10月6日(土壌ガス分析) 2021年10月15日～2021年11月1日(土壌分析)	
試料採取等対象物質と試料採取を行う区画の選定	・工場敷地全域について、テトラクロロエチレン及びその分解生成物(トリクロロエチレン、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、クロロエチレン)、及び1,1,1-トリクロロエタンについて、全部対象区画とした。	添付書類5b
第一種特定有害物質の土壌ガス採取方法	・全部対象区画は、単位区画毎に、土壌汚染のおそれが多いと認められる部分で現地表から0.8～1mの深度の地中において土壌ガスを採取した。 土壌ガスは持ち帰り分析を実施し、運搬及び保管による濃度減少の程度に関しては別冊資料2-1土壌ガス調査分析結果報告書:「運搬及び保管による濃度減少の評価」(別冊資料75ページ)に記載した。	添付書類5b
第一種特定有害物質のボーリングによる試料採取方法	土壌ガスが検出された2区画において、深度10mまでのボーリング調査を実施した。 深度10mまでに帯水層の底面は確認されなかった。 試料採取は、0～0.05m、0.5m、1m、以下1mごとの10mまでの土壌試料を採取した。	添付書類7c 添付書類7d
第二種、第三種特定有害物質の試料採取方法		

3-2. 地下水調査方法

※調査地点位置図を _____ に示す。

現地試料採取期間	(代表地点) -	
	(対象地境界) -	
室内分析期間	(代表地点) -	
	(対象地境界) -	
代表地点	地下水採取等対象物質と地下水採取を行う位置の選定(平面)	
	地下水採取等対象物質と地下水採取を行う深さの選定(断面)	
対象地境界	地下水採取等対象物質と地下水採取を行う位置の選定(平面)	
	地下水採取等対象物質と地下水採取を行う深さの選定(断面)	
地下水試料採取方法		

4. 調査結果概要

- ※1 調査結果一覧表を 添付資料5c 添付資料7d に示す。
 ※2 調査結果総括図を 添付資料7e 添付資料7d に示す。

(試料採取日:土壌ガス 2021年10月5日、土壌試料 2021年10月15日～16日)

分類	調査対象物質	土壌ガス					土壌ガス(地下水)				
		基準 (ppm) *	調査 区画数	最大 濃度 (ppm)	ガス 検出 地点数	試料 採取等 の省略	基準 (mg/l)	調査 区画数	測定 結果 (mg/l)	基準 超過 地点数	試料 採取等 の省略
(第一種特定有害物質) (揮発性有機化合物)	トリクロロエチレン	0.1	2	ND	0	無	0.01				
	テトラクロロエチレン	0.1	2	0.2	2	無	0.01				
	ジクロロメタン	0.1	0				0.02				
	クロロエチレン	0.1	2	ND	0	無	0.002				
	四塩化炭素	0.1	0				0.002				
	1, 2-ジクロロエタン	0.1	0				0.004				
	1, 1-ジクロロエチレン	0.1	2	ND	0	無	0.1				
	1, 2-ジクロロエチレン	0.1	2	ND	0	無	0.04				
	1, 1, 1-トリクロロエタン	0.1	2	ND	0	無	1				
	1, 1, 2-トリクロロエタン	0.1	0				0.008				
	1, 3-ジクロロプロペン	0.1	0				0.002				
	ベンゼン	0.05	0				0.01				

分類	調査対象物質	基準 (mg/l) *	溶出量調査						代表地点における 地下水調査				対象地境界における 地下水調査			
			調査 区画数	最深 調査 深度 (m)以下	最大 濃度 (mg/l)	最大 汚染 深度 (m)以下	基準 超過 地点数	試料 採取等 の省略	調査 区画数	最大 濃度 (mg/l)	基準 超過 地点数	試料 採取等 の省略	調査 区画数	最大 濃度 (mg/l)	基準 超過 地点数	試料 採取等 の省略
第一種特定有害物質 (揮発性有機化合物)	トリクロロエチレン	0.01	2	10	0.0008	0	0	無								
	テトラクロロエチレン	0.01	2	10	0.013	0.5	1	無								
	ジクロロメタン	0.02														
	クロロエチレン	0.002	2	10	ND	0	0	無								
	四塩化炭素	0.002														
	1, 2-ジクロロエタン	0.004														
	1, 1-ジクロロエチレン	0.1	2	10	ND	0	0	無								
	1, 2-ジクロロエチレン	0.04	2	10	0.0003	0	0	無								
	1, 1, 1-トリクロロエタン	1														
	1, 1, 2-トリクロロエタン	0.008														
	1, 3-ジクロロプロペン	0.002														
	ベンゼン	0.01														
特定有害物質 (重金属等)	カドミウム及びその化合物	0.003														
	シアン化合物	0.1														
	鉛及びその化合物	0.01														
	六価クロム化合物	0.05														
	砒素及びその化合物	0.01														
	水銀及びその化合物	0.0005														
	セレン及びその化合物	0.01														
	ほう素及びその化合物	1														
	ふっ素及びその化合物	0.8														
	有機銅化合物	0.1														
特定有害物質 (農薬等)	ポリ塩化ビフェニル	0.0005														
	チウラム	0.008														
	シマジン	0.003														
	チオベンカルブ	0.02														

*基準値の斜字:の基準は、「不検出」を示す。

分類	調査対象物質	含有量調査					基準 超過 地点数	試料 採取等 の省略
		基準 (mg/kg)	調査 区画数	最深 調査 深度(m)	最大 濃度 (mg/kg)	最大 汚染 深度 (m)		
第一種 特定有害物質	カドミウム及びその化合物	45						
	シアン化合物	50						
	鉛及びその化合物	150						
	六価クロム化合物	250						
	亜鉛及びその化合物	150						
	水銀及びその化合物	15						
	セレン及びその化合物	150						
	ほう素及びその化合物	4000						
	ふっ素及びその化合物	4000						
	基準不適合範囲の面積 [※] (m ²)		87					
汚染原因		ドライクリーニングに用いる溶剤によるものと推定される						
備考		・土壌汚染の存在するおそれが多いと認められる範囲：2区画 ・網掛け区画は、基準超過を示す。 ・基準不適合区画が存在する地番：世田谷区玉川台一丁目784番1						

●区画数は、調査対象地内の単位区画(10mメッシュ)の合計数を記載ください。

①30mメッシュの調査(一部調査対象区画の調査)を行った範囲については9区画、自然由来特例調査を行った範囲についてはその間の対象区画数として計算してください。

②第一種特定有害物質の溶出量調査で代表地点でボーリングを行った場合は、ガス検出範囲を含めた区画数で計算してください。

③統合された区画は1区画と数えてください。

④土壌汚染の存在するおそれがないと認められる範囲の区画数は含めないでください。

⑤全体の調査範囲に対し、分割して報告書を作成している場合、原則、当報告書で報告する範囲の区画数でまとめてください。

注)1 第二種特定有害物質及び第三種特定有害物質の詳細調査の結果を報告する場合は、Ⅲ-11を参考にして作成してください。なお、詳細調査結果は、法に基づく調査の場合は第7条第1項又は第12条第1項、条例に基づく調査の場合は第117条第3項の届出で報告してもかまいません。(第一種特定有害物質の深度調査については、Ⅲ-9に記入してください。)

注)2 土壌ガス等を検出ボーリング調査を実施した場合には、ボーリング調査結果も踏まえて基準不適合範囲の面積を記入してください。

(法、条例共通)

技術管理者確認欄

詳細調査(深度方向調査)結果報告シート

1. 調査概要		
調査対象地	(住居表示)世田谷区玉川台1丁目1番5号 (地 番)世田谷区玉川台一丁目764番1	添付書類3
現地試料採取期間	2021年10月15日～2021年10月16日	
室内分析期間	2021年10月18日～2021年11月1日	
指定調査機関名	エコサイクル株式会社	
指定調査機関の指定番号	2019-8-0001	
技術管理者名		
技術管理者証の交付番号		
準拠法令等	・土壌汚染対策法(平成14年法律第53号) ・同法施行令(平成14年政令第336号)、同法施行規則(平成14年環境省令第29号) ・土壌汚染対策法に基づく調査及び措置に関するガイドライン(最新版 環境省水・大気環境局土壌環境課) ・都民の健康と安全を確保する環境に関する条例(平成12年東京都条例第215号) ・東京都土壌汚染対策指針(平成31年4月1日施行)	

2. 調査方法		
※ボーリング調査地点位置図を 添付資料3 添付資料1 に示す。 ※ボーリング調査地点の断面図を 別冊資料3 添付資料2 に示す。		
ボーリング調査方法 ※1と試料採取等対象物質		
第一種有害物質の 土壌試料採取深度※2		
第二種有害物質、 第三種有害物質の 土壌試料採取深度※2		
地下水試料等対象物質、採取位置、採取深度、採取方法 ※3	土壌ガス調査でテトラクロロエチレンが検出された2区画において、ボーリング調査によるケーシング内の地下水を採取した。試料採取等対象物質は、テトラクロロエチレン及びその分解生成物(トリクロロエチレン、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、クロロエチレン)とした。	添付書類7c 添付書類7d

※1 ボーリング孔の設置状況についても記載してください。

※2 帯水層底面の試料採取がある場合は記載してください。

※3 詳細調査で追加で地下水調査を実施した場合には、採取方法等を記入してください。

3. 調査結果概要

※1 調査結果一覧表を別冊資料3 添付資料3.4 に示す。

※2 調査結果総括図を別冊資料3 添付資料5 に示す。

試料採取等対象物質名	調査区画数	基準不適合 の区画数	最深調査 深度(m)	最深汚染 深度(m)	最大濃度
土壌溶出量 (mg/L)					
土壌含有量 (mg/kg)					
地下水 (mg/L) ※	トリクロロエチレン	2	0		ND
	テトラクロロエチレン	2	0		ND
	1, 1-ジクロロエチレン	2	0		ND
	1, 2-ジクロロエチレン	2	0		ND
	クロロエチレン	2	0		ND

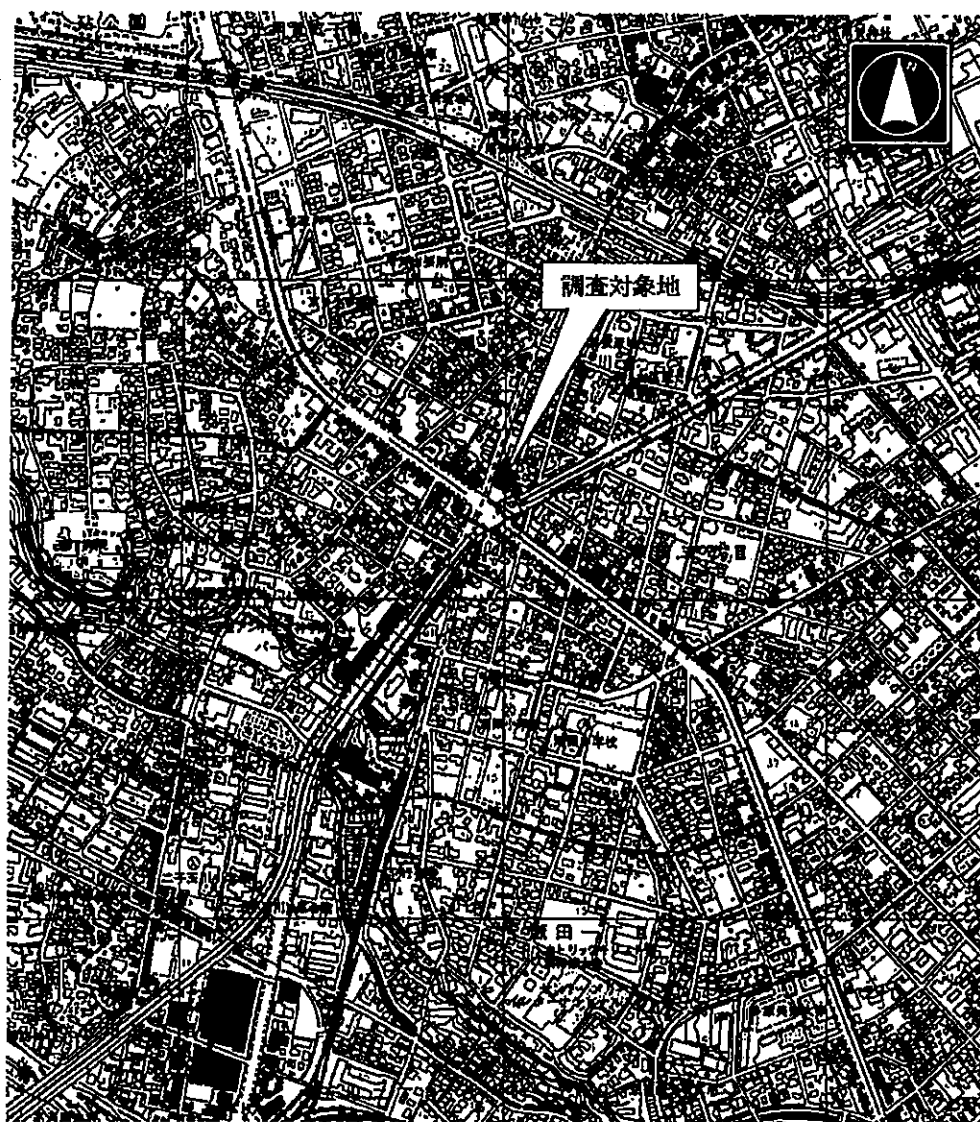
<備考>

・濃度範囲の数値の着色は基準不適合又は第二溶出量基準不適合であることを示す

●最深汚染深度は、基準超過が確認された最深深度を記載ください。(対策深度ではありません。)

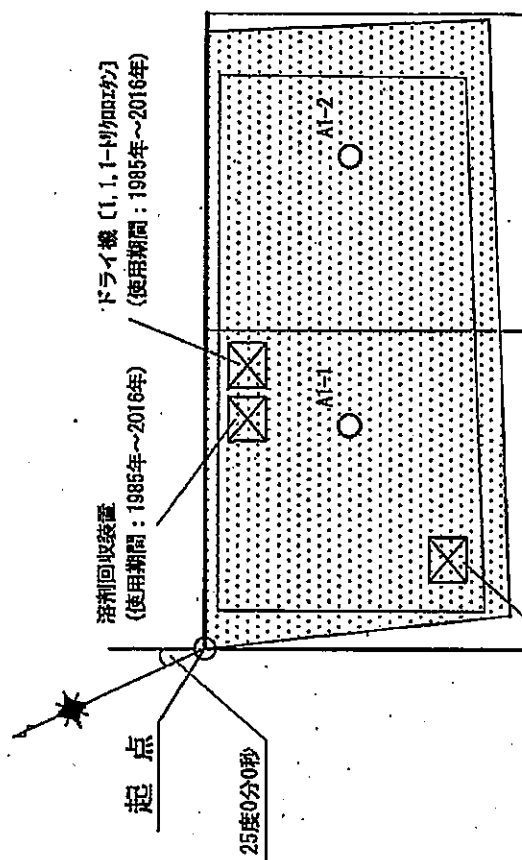
●最大濃度は、詳細調査における最大濃度を記載ください。ただし、詳細調査で汚染が見つからなかった場合には、概況調査の最大濃度を記入してください。

※詳細調査時に追加で地下水調査を実施した場合には、汚染状態を記入してください。



調査対象地位置図

(出典：国土地理院発行1万分の1地形図（自由が丘）)



表一 理由設定の取捨要領

30m 格子	単位 区画	地点No.	単位区画の分類	採取深さ	分析項目	地点配置の相換
A1	1	A1-1	全部対象区画	地表より80~100cm	チトラHGBZチリ、DリクHGBZチリ、1,1-ジ'クHGBZチリ、 1,2-ジ'クHGBZチリ、1,1,1-トリ'クHGBZチリ、クHGBZチリ 6項目 (土壌ガス調査)	単位区画内にドライ機2台、溶剤回収装置1台と、複数台の機器等が存在しているため、単位区画の中央付近に配置する。
	2	A1-2	全部対象区画	地表より80~100cm	チトラHGBZチリ、DリクHGBZチリ、1,1-ジ'クHGBZチリ、 1,2-ジ'クHGBZチリ、1,1,1-トリ'クHGBZチリ、クHGBZチリ 6項目 (土壌ガス調査)	対象物質による汚染の可能性が相対的に高い場所はないため、単位区画の中央付近とする。

凡 例	
○	土壌ガス測定地点 計2地点
	土壌汚染が存在するおそれが多い と認められる土地 (全部対象区画)
	調査対象範囲
	30m格子 (30m×30m)
	10m区画 (10m×10m)
調査件名	世田谷区玉川台1丁目サイト 土壌汚染状況調査
調査場所	東京都世田谷区玉川台1丁目78番1
敷地面積	176.16㎡
図面名称	調査採取地点図
縮 尺	1/200 (A4)
箱 号	図面番号 図5b

表5.1 土壌ガス調査結果一覧表

■土壌ガス調査 P I D分析結果

P I D分析結果 (単位: volppm)						
試料名	クロロエチレン	1,1-ジクロロエチレン	1,2-ジクロロエチレン	1,1,1-トリクロロエタン	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン
A1-1	ND	ND	ND	ND	ND	0.1
A1-2	ND	ND	ND	ND	ND	0.2
報告下限値	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1

◇ NDとは報告下限値未満を示す。

調査対象地付近における地質状況及び地下水汚染が到達する可能性のある距離の計算結果

1. 調査対象地付近における地形地質概況

調査対象地付近は、武蔵野台地の中位面に位置し、標高はT.P. +36.0mである。表層より、火山灰性の粘性土が分布する。

下図より、深度10.0m以浅において、明確な帯水層の分布は確認されないが、G.L. -4.0m付近より地下水の分布がみられる。(図6-1 近隣柱状図 参照)

2. 対象地付近における地下水概況

対象地付近における地形、地質及び地下水位から、地下水の流向は北西側から南東側に流れており、また地質的に降雨などの要因により、一時的に宙水が存在する。

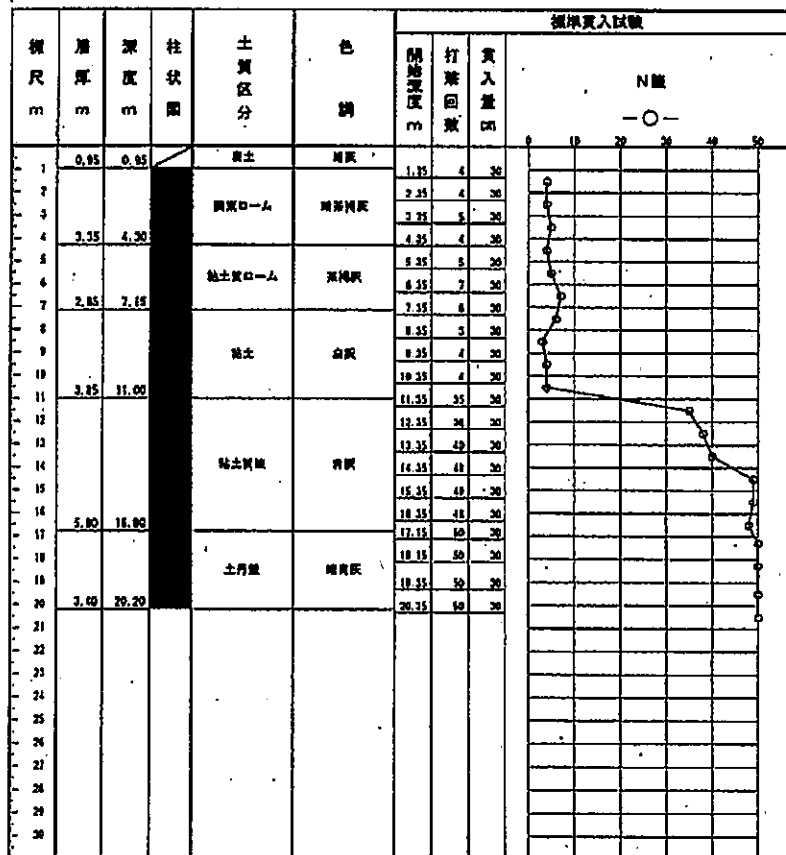
ボーリング番号: 43280020

調査時期: 1968年12月

表示座標: 北緯=35度37分11秒 東経=139度38分8秒

孔口標高: T.P. +36.00 m

孔内水位: G.L. -4.05 m



※1 資料範囲は、調査地点のおおよその位置を示しています。

図 6.1 近隣柱状図

出典: 「東京の地盤 (土木技術支援・人材育成センター)」

3. 地下水汚染が到達する可能性のある距離の計算結果

(1) 地下水汚染が到達する可能性のある計算結果 700m

(2) ボーリング柱状図から、帯水層の土質は火山灰質土と判断した。

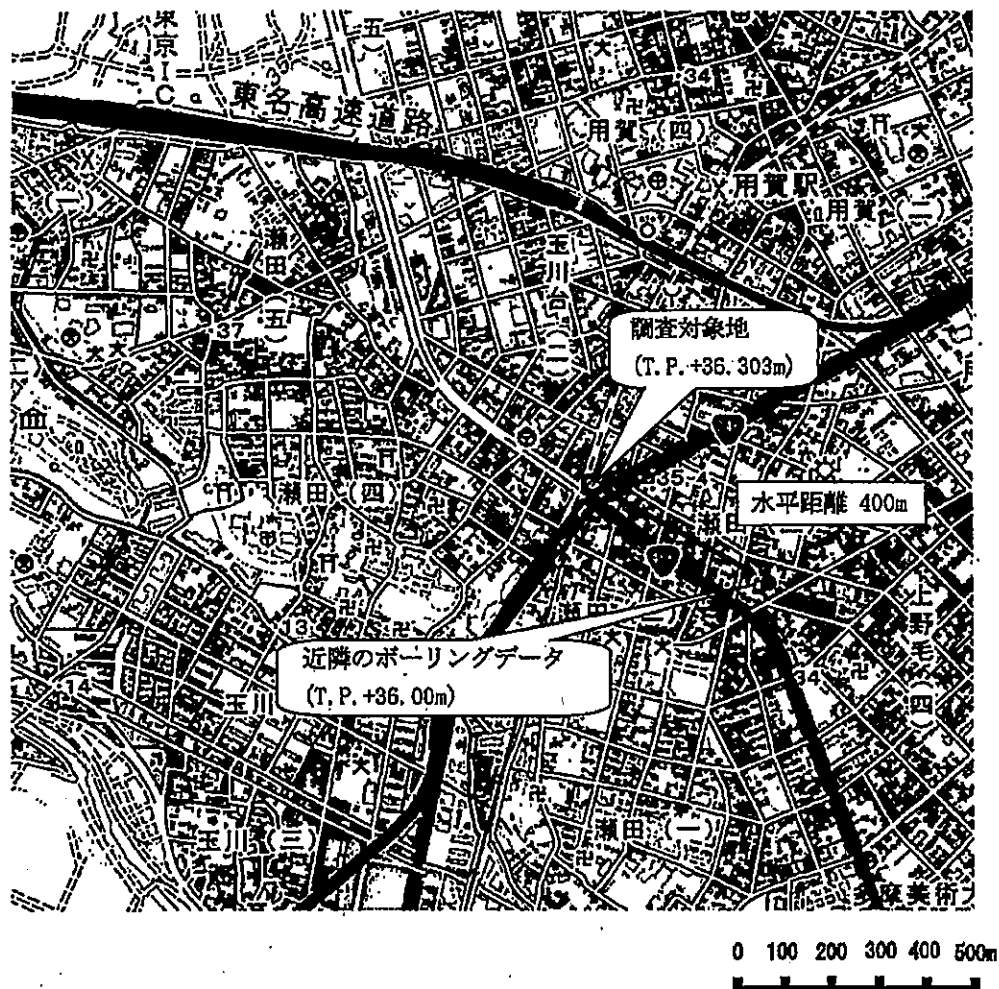


図 6.2 調査対象地と柱状図の位置関係を示す図

出典：「国土地理院発行 1 万分の 1 地形図（東京南西部）」を部分拡大

地下水汚染が到達し得る距離 計算結果

文書番号 文書一
 状況調査報告書提出日 2021年11月1日
 計算実施日 2021年11月1日
 所在地 東京都世田谷区玉川台1丁目1番5号
 自由設定項目 ※ この項目は項目タイトルを自由に設定することができます。
 土質の種類 火山灰質土
 動水勾配 0.0025 m/m

	物質種類	地下水汚染が到達し得る距離
第一種特定有害物質	クロロエチレン	m
	四塩化炭素	—
	1,2-ジクロロエタン	—
	1,1-ジクロロエチレン	350 m
	1,2-ジクロロエチレン	400 m
	1,3-ジクロロプロペン	—
	ジクロロメタン	—
	テトラクロロエチレン	300 m
	1,1,1-トリクロロエタン	—
	1,1,2-トリクロロエタン	—
	トリクロロエチレン	400 m
	ベンゼン	—
第二種特定有害物質	カドミウム及びその化合物	—
	六価クロム化合物	—
	シアン化合物	—
	水銀及びその化合物	—
	セレン及びその化合物	—
	鉛及びその化合物	—
	砒素及びその化合物	—
	ふっ素及びその化合物	—
第三種特定有害物質	ほう素及びその化合物	—
	シマジン	—
	チオベンカルブ	—
	テウラム	—
	ポリ塩化ビフェニル	—
	有機りん化合物	—

備考

※備考欄としてご使用下さい。

地下水汚染が到達し得る距離 計算シート

地下大気汚染が到達し得る距離の計算シート Ver1.0

【区域情報】

本調査地 文部一

状況調査報告書提出日 2021年11月1日

計算書提出日 2021年11月1日

所在地 東京都世田谷区五反田1丁目1番9号

調査地位置 画 2 の位置は項目タイトルを参照にしてください。

【入力値】

調査地位置と汚染物質の位置

① 物質種類 汚染物質の種類

汚染物質の種類	汚染物質の種類	汚染物質の種類
クロロエチレン	クロロホルム及びその化合物	シベタン
四塩化炭素	六塩化クロム化合物	テトラベンジカルブ
1,1-ジクロロエタン	シアン化合物	デカラム
1,1-ジクロロエチレン	水素及びその化合物	ポリ塩化ビニル
1,2-ジクロロエチレン	水素及びその化合物	有機りん化合物
1,1,1-トリクロロエタン	酸素及びその化合物	
1,1,2-トリクロロエタン	酸素及びその化合物	
トリクロロエチレン	酸素及びその化合物	
ベンゼン		

② 土質 火山灰質土

③ 地形傾斜(地下水勾配)

傾斜	厚さ
0.0025	m/m

計算パラメータ

① 土質パラメータ

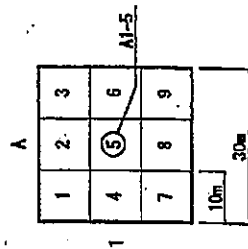
名称	記号	数値	単位
透水係数	k	1.0E-04	m/s
汚染物質の濃度	cm	0.1	mg/m ³
汚染物質	n	0.1	mg/m ³
土壌の密度	ρs	2.5	g/cm ³
汚染土の密度	ρd	1.00	g/cm ³
汚染土の含水率	ws	0.21	g/g

② 地形傾斜(地下水勾配)

名称	記号	数値	単位
傾斜度	Vs	3.942	m/s

【計算結果】

汚染物質の種類	汚染物質の種類	汚染物質の種類
クロロエチレン	クロロホルム及びその化合物	シベタン
四塩化炭素	六塩化クロム化合物	テトラベンジカルブ
1,1-ジクロロエタン	シアン化合物	デカラム
1,1-ジクロロエチレン	水素及びその化合物	ポリ塩化ビニル
1,2-ジクロロエチレン	水素及びその化合物	有機りん化合物
1,1,1-トリクロロエタン	酸素及びその化合物	
1,1,2-トリクロロエタン	酸素及びその化合物	
トリクロロエチレン	酸素及びその化合物	
ベンゼン		



調查地点凡例

表7.1 深度方向調査結果一覧表

調査対象物質 試料採取区画 【試料採取日】		第一種特定有害物質								
		調査深度		溶出量(mg/L)						
		GL	TP	1,1-ジクロロエチレン	トランス-1,2-ジクロロエチレン	シス-1,2-ジクロロエチレン	1,2-ジクロロエチレン	テトラクロロエチレン	トリクロロエチレン	クロロエチレン
A1-1 【令和3年 10月16日】	0m	+35.303m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	-0.50m	+35.803m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.0013	不検出	不検出
	-1.00m	+35.303m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.0019	不検出	不検出
	-2.00m	+34.303m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.0013	不検出	不検出
	-3.00m	+33.303m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	-4.00m	+32.303m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	-5.00m	+31.303m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	-6.00m	+30.303m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	-7.00m	+29.303m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	-8.00m	+28.303m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	-9.00m	+27.303m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	-10.00m	+26.303m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
地下水(mg/L)			不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
A1-2 【令和3年 10月16日】	0m	+35.303m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	-0.50m	+35.803m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	0.013	0.0008	不検出
	-1.00m	+35.303m	不検出	不検出	不検出	0.0003	0.0003	0.0035	0.0004	不検出
	-2.00m	+34.303m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	-3.00m	+33.303m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	-4.00m	+32.303m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	-5.00m	+31.303m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	-6.00m	+30.303m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	-7.00m	+29.303m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	-8.00m	+28.303m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	-9.00m	+27.303m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	-10.00m	+26.303m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
地下水(mg/L)			不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
基準値			0.1以下	—	—	0.04以下	0.01以下	0.01以下	0.01以下	0.002以下
第二溶出量基準値			1以下	—	—	0.4以下	0.1以下	0.1以下	0.1以下	0.002以下
定量下限値			0.0002	0.0002	0.0002	0.0002	0.0002	0.0002	0.0002	0.0002

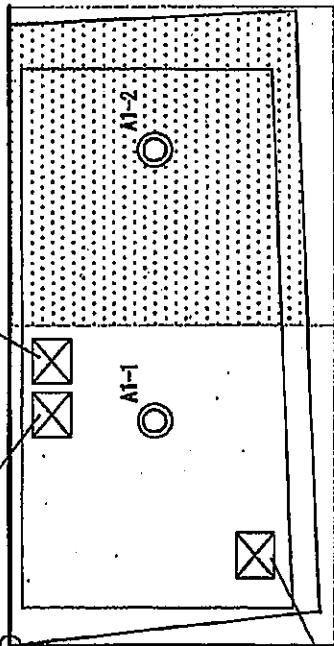
◇不検出とは定量下限値未満を示す。

◇赤字は基準不適合を示す。

ドライ機 [1,1-1(70mm)]
(使用期間: 1985年~2016年)

溶剤回収装置
(使用期間: 1985年~2016年)

起 点



ドライ機 [70mm]
(使用期間: 詳細不明~1980年代中頃)

テトラクロロエチレン土壌溶出量基準不適合区画

分析結果一覧表

地点名	深 度	土壌溶出試験 (単位:mg/L)				
		1,1-ジクロロエチレン	1,2-ジクロロエチレン	トリクロロエチレン	四クロロエチレン	五クロロエチレン
A1-1	0.05m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	0.60m	不検出	不検出	0.0013	不検出	不検出
	1.00m	不検出	不検出	0.0019	不検出	不検出
	2.00m	不検出	不検出	0.0013	不検出	不検出
	3.00m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	4.00m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	5.00m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	6.00m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	7.00m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	8.00m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
A1-2	9.00m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	10.00m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	地下水	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	0.05m	不検出	不検出	0.013	0.0008	不検出
	0.50m	不検出	不検出	0.0035	0.0004	不検出
	1.00m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	2.00m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	3.00m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	4.00m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	5.00m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
A1-5	6.00m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	7.00m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	8.00m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	9.00m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	10.00m	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	地下水	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	基準値	0.1以下	0.04以下	0.01以下	0.01以下	0.002以下
	定量下限値	0.0002	0.0002	0.0002	0.0002	0.0002
	不検出とは定量下限値未満を示す。					
	赤字は基準不適合を示す。					

A	1	2	3	A1-5
	4	5	6	
1	7	8	9	30m
	10m			

調査地点凡例

凡 例

- ボーリング調査地点 深度10.0m×計2地点
- 既往土壌ガス測定地点 計2地点

- 調査対象範囲
- 30m格子 (30m×30m)
- 10m区画 (10m×10m)

調査件名	世田谷区玉川台1丁目サイト
調査場所	詳細調査
敷地面積	176.16㎡
図面名称	調査結果図
縮 尺	1/200 (A4)
図面番号	図7.2

ボーリング柱状図

調 査 名 世田谷区玉川台1丁目サイト詳細調査

[illegible]

事業・工事名

4-14

ボーリング名	A1-1		調査位置	東京都世田谷区玉川台1丁目1番5号				北緯	
発注機関					調査期間	2021年 10月 15日 ~ 2021年 10月 16日		東経	
調査業者名	エコサイクル株式会社		主任技師	現 場 代 理 人		コ ア ー 定 者	ボーリング 責任者		
孔口標高	T.P. +36.263m	角 180° 上 90° 下 0°	方 向 北 0° 270° 90° 西 東 180° 南	地盤 勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用 機種	ECO-1V	ハンマー 落下用具	
総掘進長	10.30m	度				エンジン		ポンプ	

[illegible]

ボーリング柱状図

調 査 名 世田谷区玉川台1丁目サイト詳細調査

[illegible]

事業・工事名

シート紙

ボーリング名	A1-2		調査位置		東京都世田谷区玉川台1丁目1番5号					北緯	
発注機関						調査期間	2021年 10月 15日 ~ 2021年 10月 15日			東経	
調査業者名	エコサイクル株式会社		主任技師		現場代理人		コア判定者		ボーリング責任者		
孔口標高	T.P. +38.303m	角 180° 上 90° 下 0°	方 向 北 0° 270° 90° 180° 東 西 南	地盤 勾配 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試験機 ECO-1V		ハンマー 落下用具			
総掘進長	10.30m	座			エンジン			ポンプ			

[illegible]